

いしずえ

# 礎

## 茨城県民間保育協議会青年部

### ■ 青年部活動報告 ■

#### 民間保育協議会青年部勉強会報告

12月15日県民文化センターにおいて、新会計基準・保育園会計実務処理について「保育所における会計の実務（基礎編）」の勉強会が行われました。新会計基準は、早ければ平成24年度予算分から順次移行が開始され、平成27年度には、完全移行になる為、多くの青年部員が熱心に受講していました。

講師には株式会社幼保経営サービス 菅野哲氏をお招きし、新会計基準の概要から新たに導入される会計処理の内容までとても丁寧に素人にも解るよう一つ一つ説明していただきました。

従来の事業ごとの経理区分の考え方から、「サービス区分」という考え方が導入されたことなど、実際に経理規定のサンプルまで細かくご説明いただき即実務に生かせる内容でした。慌しい現場において新会計に対する不安がありながらもなかなか勉強する機会がとれない中、有意義な勉強会となりました。新会計は、これからの保育園を担う私たち青年部のメンバーにとっては必須でありますし、今後もぜひこのような勉強会を開催していければと思います。



#### ☆ トピックス ☆

- 青年部活動報告
  - ・ 民間保育協議会青年部勉強会報告
  - ・ 調査研究委員会視察報告
- 日本保育協会青年部報告
- 全国私立保育園連盟青年会議報告

エコ活動の一環として、両面印刷、NO ホチキスにて配布いたします。御了承下さい。



去る11月25日、調査研究委員会では次年度の活動内容にリンクした「視察研修」を実施し、調査研究委員をはじめとする青年部執行部を含めた総勢20名程が参加しました。視察先は千葉県浦安市役所「保育幼稚園課」と東京都四谷にある「東京おもちゃ美術館」です。視察の目的は「幼保小連携」を大きなテーマに、先進的な事例の調査とジョイント期における発達過程について見識を深めることです。まず浦安市については幼保小連携の取り組みとして09年から『就学前の「保育・教育」指針』を策定しているという大きな特徴があります。液状化の



爪跡が残る同市は住環境と教育インフラが一体の言わずと知れた新興住宅地です。その一画にある公立「日の出幼稚園」で研修が行われ、当方の事前に挙げた質問事項に答える形で行政説明が行われました。評価できる点として①市長肝いりの施策「市民会議」の提言によって指針づくりが実現したこと、②浦安市としての育てたい子ども像を策定していること、③有識者を交え保育園、幼稚園、小学校、公立、民間を問わず市内の関係者を策定メンバーに据え「保育・教育課程」を策定していることなどが挙げられます。一方、実態として私立幼稚園と足並みがそろわないことや、保育園については指定を受けた小学校区の園のみの実績しかなく、自治体全体で幼保小連携を行うことの難しさを改めて実感するものとなりました。浦安を訪れ強く感じたのは市民総出の丁寧な行政スキームづくりの必要性です。同じ地域に生きる子どもたちをどう育てていくかは先送り可能な問題ではないが、価値観の多様化を前提とした教育システムの在り方については相当の熟慮と関係者をその気にさせるコンセンサスを得る時間が必要となります。地域において私たちが寄与できることは何かを考えさせられるものでした。



次の視察先である東京おもちゃ美術館は戦前に建てられ閉校になった旧校舎を活用し08年に開館したおもちゃのミュージアムです。今回は館内を見学し、おもちゃを媒体にした子どもたちの発達過程について理解を深めるとともに、館長である多田千尋氏の講演会が主な内容となりました。館内は「木育玩具」を中心に国内外のこだわりのおもちゃが見て触れるほか、企画展示や手作りおもちゃなどのワークショップも充実しています。また、美術館の特徴の一つが200人を超える「おもちゃ学芸員」と呼ばれるボランティアスタッフ

の存在で、開館時は彼らがおもちゃの解説や遊び方の手ほどきを行います。その「おもちゃ学芸員」の募集や取りまとめをはじめ、その年の優れたおもちゃを選出する「グッド・トイアワード」なる取り組みを行っているのがNPO日本グッド・トイ委員会。多田氏は同委員会の理事長でもあります。ならびに同氏は芸術教育研究所、高齢者アクティビティ開発センター等の代表。「福祉文化論」で早稲田大学の教壇にも立っています。講演は、参加者と同じ後継者として美術館を現在にまで押し上げたプロセスをはじめ、国内外で同氏が出会ったおもちゃやそれにまつわるエピソードの数々を紹介しその魅力と役割について語られました。最後に、幼児期からの遊びや学びを保障する我々保育園関係者に期待を込めて贈ってくれたメッセージは2つ。①園には3つの間（時間・空間・仲間）が存在し、さらには4つ目の間である「世間」が生まれるというもの②「知ることは感じることの半分より大切ではない」というレイチェルカーソンの言葉を引用し、これから求められる保育の質や子どもの「感

性」を伸ばす教育の本質的な部分について話も及びました。

就学期に向けての接続が観察研修の大きなテーマでしたが、自園のみならず地域においても保育園の取り組みや連携の重要性を発信していく必要がまだまだあると感じました。地域に帰り参加者のこれまで以上の活躍を期待し、この研修がその一助となれば幸いです。

## 日本保育協会青年部全国青年保育者会議報告

日本保育協会青年部全国青年保育者会議が9月7日～9日までの三日間で長崎県長崎市において開催されました。大会副実行委員長 水田明光氏の元気の開催宣言で開幕しました。一日目は「乳幼児期の育ちから保育を考える」テーマに開会式、行政説明、シンポジウムと進みました。私たち保育者は、子どもの発達の特徴を十分に理解し、一人一人の発達過程に応じて見通しを持って保育を行えるよう「質」を問われています。そのような時代の中、日本赤ちゃん学会で同志社大学大学院心理学研究科教授 小西行郎氏、新宿せいが保育園長 藤森平司氏をパネ



リストにお迎えして行われました。「0歳から教育が始まっている」と言う言葉には会場から拍手の声が上がりました。懇親会のアトラクションでは長崎ならではの「中国獅子舞」「長崎くんち」など華やかに行われました。



二日目の分科会では日本保育協会ですべて初めて10箇所にも及ぶ保育園の公開保育、意見交換を行いました。各保育園へ向けてバスに乗り込み午前中は公開保育、午後からは意見交換が行われ、保育について活発な意見交換をなりました。また会場では2つの分科会が行われ、保育実践をふまえて「遠隔地の3箇所の特色ある保育」の発表後、意見交換が行われました。

また一方では「これからの保育」をテーマに株式会社JPホールディングス代表取締役 山口洋氏、株式会社ベネッセスタイルケアチャイルドケア事業部部長 佐久間貴子氏、日本保育協会理事 坂崎隆浩氏、日本保育協会青年部部長 堀昌浩氏より、最高の保育とは「子どもが大人になり、大人は子どもを育む」という「引き継ぎ・受け継ぐ」という当たり前の事だと思ふ。しかし現代は道徳をなくし、人格を崩壊させているのでは・・・単純に「保育をする」と言う事が保育の質の向上につながる「保育をする」「日本人像のある保育」をパネラーの先生方の熱い思いの討論でした。

最終日には日本保育協会本部報告、シンポジウム、横浜大会から行われているフォトコンテスト、閉会式など会期中の日程が終了し無事に閉幕しました。次回は愛媛県での開催予定です。

## 全国私立保育園連盟青年会議報告

2月・3月と研修がありますので、ご都合がよろしければご参加願います。

### 第31回全国私立保育園連盟青年会議全国大会 「京都大会」

期日：平成24年2月16日(木)・17日(金)

場所：ホテルグランヴィア京都

大会テーマ：「守・破・離」

守：保育での大切なもの、京都の伝統を知る。

破：伝統や既存の価値観にとらわれず、新しいスタイルに挑戦する。

離：より高いステージへと自分を導く。

記念公演：「祖国は甦る」 講師：青山繁晴氏(株独立総合研究所代表取締役・首席研究員)

参加費：16,000円(交通費、宿泊費別・各自)

申込用紙：各園に配布済

申込〆切：平成24年1月6日

### 第7回特別セミナー

期日：平成24年3月3日(土)

時間：13:00~16:00

場所：AP浜松町会議室

〒105-0011 東京都港区芝公園2-4-1 芝パークビルB館地下1F

定員：120名

参加費 2,000円(会員・非会員) \*資料代及び消費税を含みます

テーマ：「どうなる日本の保育～保育経営と保育の質を考える～」

第1部：基調講演<情勢報告> 村木厚子内閣府政策統括官

第2部：パネルディスカッション ～保育制度が変わる?! 私たちが考える保育とは～

保育所：(依頼中)

幼稚園：安家周一氏(全日本私立幼稚園幼児教育研究機構研究研修委員長大阪府豊中市あけぼの幼稚園園長)

企業：山口洋氏(JPホールディングス代表取締役)

コーディネーター：大豆生田啓友氏(玉川大学准教授)

申込：私保担当：柳澤までご連絡ください。

参加申込書を添付ファイルで送信致します。

### 編集後記

震災・台風と自然の脅威を思い知らされた2011年が終わろうとしております。自園にとりましてもまさに『災』多き一年でありました。年度当初より震災の後始末に追われ、一息ついた夏に台風によって更なる被害を被ってしまいました。まさに『泣き面に蜂』こんな年もあるものかと歯を食いしばって耐えました。特集号で重ねてお伝えしてきた仲間の被害の様子には、皆さまぞ心を痛めたことでしょう。しかし社会は疲弊しきってなかった…今年の漢字は『絆』。今こそ湧き上がる人とのつながりを大切に思う気持ち。我々は復興へ向けてジャンプするために、大きくしゃがみ込んでいるのです。この『絆』という反動を保ってこれからに向けて飛躍しましょう。身体を、心を伸ばして子ども達と共に。

広報委員会 S